平成 24 年 5 月 31 日
国土交通省東北地方整備局
津 軽 ダ ム 工 事 事 務 所

平成 23 年度の

# 津軽ダム建設本体工事従事者の生活実態から見た経済波及効果の検証について

津軽ダム工事事務所では、平成２１年度から継続し、津軽ダム本体工事に従事する職員の生活実態に関するアンケート調査を実施し、地元（弘前市、西目屋村）への経済波及効果を検証して参りました。

その結果、食品や日用品の購入のため、工事関係者によって**年間約 8,300 万円が地元で消費**されていることが分かりました。

**【調査概要】**

調査対象者：ワークステーション※で生活している津軽ダム本体工事の従業員

調 査 項 目：1 ヶ月間に日用品や食品に消費した一世帯あたりの金額と購入した地域

実 施 時 期：平成 21 年度～平成 23 年度
（調査結果は、3 年間の平均値より算出）

※ ワークステーション（右写真）：
津軽ダム建設工事に従事する作業員のための宿舎。最大 200 名程度が生活。




▲写真　ワークステーション

**【調査結果】**

・ 日常生活で１ヶ月間に消費した金額は、１世帯平均約 82,200 円/月であり、そのうち、**８４％にあたる約 69,300 円/月は、西目屋村または弘前市で消費**されました。
【別添資料Ｐ１参照】

・ 従業員全員(約 100 世帯）の年間消費額に換算すると**約 8,300 万円／年**となり、津軽ダム建設事業による経済効果が、間接的に周辺地域に発現したと言えます。
【別添資料Ｐ１参照】

・ 品目別にみると「食品」が全体の５８％（4,829 万円/年）を占め、そのうち**「食料品・食事代」に 3,190 万円/年が消費**されました。その他には西目屋村や弘前市で「ガソリン代」や「娯楽・スポーツ代」が多く消費されています。　【別添資料Ｐ２参照】

≪発表記者会：※この資料は、弘前市記者会、東北専門記者会加盟各社に配布しております。≫


| 問い合わせ先 |
| --- |
| 国土交通省　津軽ダム工事事務所<br>調査設計課長　吉田　久　(内 351)<br>建設専門官　　工藤　尚武(内 402)<br>電話：０１７２－８５－３００５（代表）<br>fax ：０１７２－８５－３００８<br>メールアドレス： tugaru@thr.mlit.go.jp |

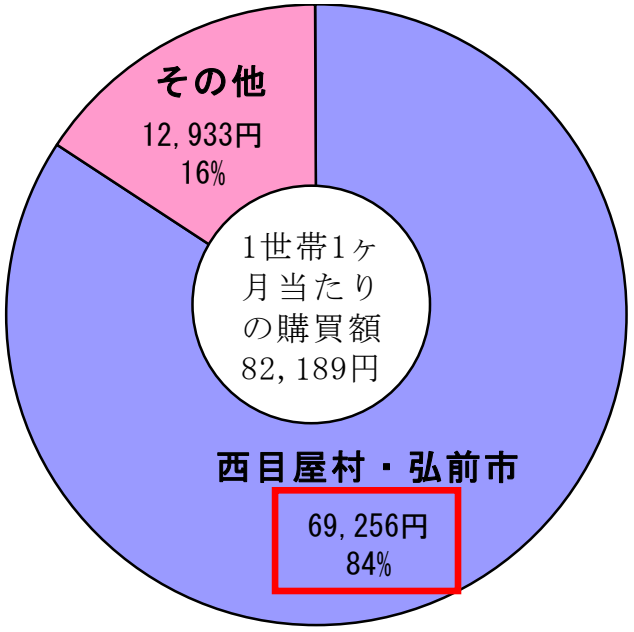
# 平成23年度 生活実態調査の概要

## １)津軽ダム本体工事従業員の消費額

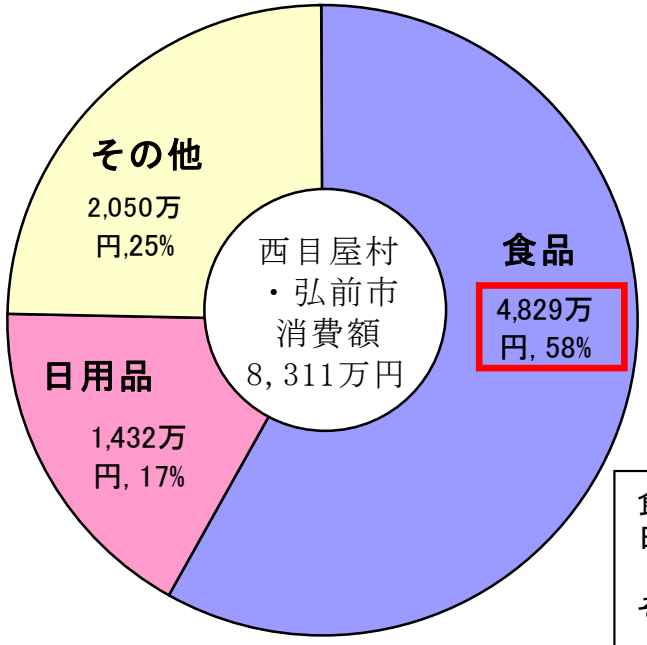
- 従業員一世帯が１ヶ月間に消費した金額は、平均82,189円/月
- そのうち84%にあたる69,256円/月が、西目屋村または弘前市で購入
- 従業員全員(約100世帯）の年間消費額に換算すると**約8,300万円/年**。

  年間の購買金額＝69,256円/月×100世帯×12ヶ月＝8,311万円/年

- 西目屋村または弘前市で消費された品目の58%にあたる4,829万円/年は「食品」が占めている。




買い物場所別の購買額および購買割合




品目別の購買額および購買割合

**食　品**：食料品・食事代、飲食代
**日用品**：新聞代、書籍・雑誌・週刊誌代、タバコ代、日用雑貨代
**その他**：ガソリン代、理髪代、娯楽・スポーツ代

# ２)消費された各品目の地域別内訳(１年間の推計値)



- 品目別に見ると、「食料品・食事代」が最も多く、西目屋村または弘前市で3,190万円/年が消費されている。
- その他「ガソリン代」「娯楽・スポーツ代」の順に消費額が大きくなっている。

